



2022年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月12日

上場会社名 株式会社 ヤマノホールディングス

上場取引所 東

コード番号 7571 URL <https://www.yamano-hd.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼最高経営責任者 (CEO) (氏名) 山野 義友

問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員管理本部長 (氏名) 岡田 充弘

TEL 03-3376-7878

四半期報告書提出予定日 2021年11月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (2021年11月25日開催予定 機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	6,435	11.4	54	990.6	44		29	
2021年3月期第2四半期	5,778	16.8	5	95.4	3		286	

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 42百万円 (%) 2021年3月期第2四半期 257百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	0.85	
2021年3月期第2四半期	8.55	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	9,772	1,061	10.9
2021年3月期	10,988	1,008	9.2

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 1,061百万円 2021年3月期 1,008百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		0.00	0.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)				1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,000	10.2	230	30.7	200	38.5	100		2.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	35,830,058 株	2021年3月期	34,497,058 株
期末自己株式数	2022年3月期2Q	956,869 株	2021年3月期	956,869 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	34,865,905 株	2021年3月期2Q	33,540,189 株

当社は「株式給付信託(BBT)」を導入しており、株主資本に自己株式として計上されている「株式給付信託(BBT)」に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。また1株当たり純資産額の算定上、期末発行株式総数から控除する自己株式に含めております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・当社は、決算補足説明資料を、この決算短信公表後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における国内経済は、昨年来続く新型コロナウイルスの感染拡大により、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が断続的に継続するなど、依然として厳しい状況が続いております。新型コロナウイルスワクチン接種などの感染拡大防止策による経済の改善が期待されますが、新型コロナウイルス感染症の再拡大による内外経済に与える下振れリスクも懸念される状況にあります。

当社グループにおきましても、政府の緊急事態宣言に伴い、一部店舗の営業自粛や営業時間の短縮が断続的に実施され、通常の営業活動に完全に戻るには至らず、厳しい経営環境は継続しております。全般的な売上回復傾向はあるものの、長引くコロナ禍によって外出自粛が常態化したこともあり、集客減の影響は当面続くと見込まれます。

そのような状況の下、当社グループでは、お客さまと従業員の安全確保を最優先とした環境を整備しつつ、業務の効率化の推進及び店舗の管理・運営コストの削減に取り組み、事業基盤の強化に努めてまいりました。また、既存事業のDX化を促進し、新たなビジネスモデル創出を図るため、2021年5月に専門家を招聘しDX推進室を立上げ、開発・検証に着手いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は64億35百万円（前年同期比11.4%増）となり、営業利益は54百万円（前年同期比990.6%増）、経常利益は44百万円（前年同期は経常損失3百万円）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失については、売上高の回復に加え、新型コロナウイルス感染症による損失が大幅に減少したこと等により、29百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失2億86百万円）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

・美容事業

美容事業においては、長引くコロナ禍での外出自粛等による来店客数の回復鈍化に対応すべく、予約状況に合わせた勤務体制管理の徹底をはじめとしたコストコントロールに努めるとともに、前期より不採算店舗の閉鎖を行い、収益構造の強化を図ってまいりました。当上期は、前上期より11店舗減となった影響があり、売上高は10億11百万円（前年同期比3.1%減）となりました。損益面では、不採算店舗の閉鎖等による収益改善はあったものの、一部固定費の特別損失への振替が前上期に比べ1億38百万円減少したことがあり、セグメント損失は32百万円（前年同期はセグメント利益19百万円）となりました。美容事業では、引き続き運営コスト削減に努めるとともに、従来のサービスメニューの見直しを推進しております。美容室サロンでは、カット&カラーに付加価値を加えた新メニュー導入を決定、ネイルサロンではフット・ハンドケアメニューに加えて、新たにフェイシャルケアメニュー導入を決定するなど、お客さまニーズに応える新メニューの開発により、収益力向上に努めてまいります。

・和装宝飾事業

和装宝飾事業においては、前第2四半期以降は通常営業店舗が増加したことにより売上高回復傾向となっております。当四半期においては、緊急事態宣言発出による一部店舗休業や大型展示販売会の最終日を急遽中止とした影響のほか、受注商品の引渡し停滞の影響等がありましたが、売上高は47億31百万円（前年同期比18.4%増）と回復し、セグメント利益は91百万円（前年同期はセグメント損失36百万円）となりました。和装宝飾事業では、お客さまに安心・安全な売場環境整備を行いつつ企画販売の拡充を強化し店頭販売活性化に努めるほか、子会社の株式会社すずのきでは、きものの最新トレンド・最新スタイリングを提案し、より身近に着物を楽しんでいただくための新コンセプトショップ「たまゆう川口店」を5月に新店出店するなど、新たなきものファンの獲得に努めてまいります。

・DSM事業

DSM事業においては、前期より需要が高まった健康関連商品の販売を推進し、訪問販売の強化に努めてまいりましたが、長引くコロナ禍により展示販売会での集客は依然として厳しい状況となりました。その結果、売上高は事業所の統廃合の影響もあり、4億64百万円（前年同期比10.0%減）となりましたが、セグメント損失は21百万円（前年同期はセグメント損失27百万円）と若干改善いたしました。DSM事業では当四半期において組織再編を行い、人財開発の強化及び販売体制の再構築を実施、新規・休眠顧客の開拓を推進するとともに、提案商品の抜本的な見直しを図り、新たな販売チャネル構築のため定期購入システム導入の検討を開始するなど、収益改善に努めてまいります。

・その他の事業

その他の事業の収益は、株式会社マンツーマンアカデミーの学習塾運営収益、株式会社ヤマノセイビングの前払い式特定取引業による手数料収益及び一般社団法人日本技術技能教育協会の着着付教室の運営収益、DX推進室の運営収益であります。売上高は、学習塾事業が順調に推移したこともあり2億28百万円（前年同期比3.1%増）となりました。セグメント損失は、DX推進室の稼働開始に伴う開発・検証費用の発生等があり、26百万円（前年同期はセグメント損失7百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて12億16百万円減少し97億72百万円となりました。これは主に現金及び預金が12億76百万円減少、受取手形及び売掛金が27百万円増加、商品及び製品が65百万円増加し、敷金及び保証金が26百万円減少したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて12億70百万円減少し87億10百万円となりました。これは主に、短期借入金が24百万円減少、長期借入金が62百万円減少、支払手形及び買掛金が1億86百万円減少、未払金が4億8百万円減少、前受金が47百万円減少したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ53百万円増加し10億61百万円となりました。これは、第三者割当増資による資本金及び資本剰余金の増加95百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失計上による利益剰余金29百万円の減少等によるものです。なお、2021年6月29日開催の定時株主総会決議に基づき2021年8月2日付で無償減資を実施し、資本金が117,988千円減少、資本剰余金が117,988千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が30,000千円、資本剰余金が165,976千円となっております。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期連結会計期間末に比べ1億64百万円減少し37億9百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果支出した資金は、12億41百万円（前年同四半期は45百万円の支出）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純損失10百万円、棚卸資産が64百万円増加、未払金が4億8百万円減少、仕入債務が1億73百万円減少、前受金が47百万円減少したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、43百万円（前年同四半期は49百万円の支出）となりました。

これは主に、店舗出店等に伴う有形固定資産の取得による支出38百万円、敷金及び保証金の差入による支出15百万円、差入保証金の回収による収入17百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、8百万円（前年同四半期は23億93百万円の収入）となりました。

これは主に、短期借入金の減少額24百万円、長期借入れによる収入1億円、長期借入金の返済による支出1億47百万円、株式の発行による収入95百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の業績予想につきましては、2021年5月14日公表の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,474,122	4,197,944
受取手形及び売掛金	2,271,348	2,299,258
商品及び製品	1,392,885	1,458,323
原材料及び貯蔵品	3,302	1,920
その他	275,283	280,971
貸倒引当金	△20,101	△11,767
流動資産合計	9,396,840	8,226,650
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,057,805	1,059,140
減価償却累計額	△719,461	△726,774
建物及び構築物(純額)	338,344	332,365
機械装置及び運搬具	9,188	-
減価償却累計額	△6,348	-
機械装置及び運搬具(純額)	2,840	-
工具、器具及び備品	263,210	267,139
減価償却累計額	△231,503	△233,472
工具、器具及び備品(純額)	31,707	33,667
土地	40,211	40,211
リース資産	75,755	75,755
減価償却累計額	△43,713	△48,572
リース資産(純額)	32,041	27,182
建設仮勘定	-	2,380
有形固定資産合計	445,145	435,807
無形固定資産		
のれん	3,673	2,917
その他	17,217	14,820
無形固定資産合計	20,890	17,737
投資その他の資産		
投資有価証券	181,914	169,018
長期貸付金	9,608	9,065
敷金及び保証金	902,521	876,341
その他	57,785	62,906
貸倒引当金	△25,775	△25,377
投資その他の資産合計	1,126,053	1,091,954
固定資産合計	1,592,089	1,545,498
資産合計	10,988,930	9,772,149

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,395,202	1,209,072
電子記録債務	274,345	286,894
短期借入金	2,316,720	2,291,760
1年内償還予定の社債	9,600	5,400
1年内返済予定の長期借入金	307,910	323,150
未払金	1,135,281	726,869
前受金	1,373,530	1,325,618
未払法人税等	69,060	20,396
賞与引当金	45,200	68,124
ポイント引当金	29,785	-
株主優待引当金	6,020	6,020
資産除去債務	4,322	9,425
その他	842,848	366,047
流動負債合計	7,809,827	6,638,780
固定負債		
長期借入金	1,684,444	1,622,118
長期末払金	63,338	53,896
退職給付に係る負債	23,145	22,767
役員株式給付引当金	28,721	28,721
繰延税金負債	16,985	15,475
資産除去債務	307,938	296,931
その他	46,410	32,118
固定負債合計	2,170,983	2,072,028
負債合計	9,980,811	8,710,808
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	30,000
資本剰余金	-	165,976
利益剰余金	1,022,874	993,204
自己株式	△99,303	△99,303
株主資本合計	1,023,570	1,089,876
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△15,451	△28,535
その他の包括利益累計額合計	△15,451	△28,535
非支配株主持分	-	-
純資産合計	1,008,119	1,061,341
負債純資産合計	10,988,930	9,772,149

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	5,778,326	6,435,303
売上原価	2,890,054	3,208,572
売上総利益	2,888,271	3,226,730
販売費及び一般管理費	2,883,267	3,172,159
営業利益	5,003	54,571
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,715	1,924
受取地代家賃	1,138	876
助成金収入	3,271	934
その他	4,804	4,975
営業外収益合計	10,929	8,711
営業外費用		
支払利息	9,461	14,131
その他	10,031	4,427
営業外費用合計	19,493	18,558
経常利益又は経常損失(△)	△3,559	44,724
特別利益		
固定資産売却益	-	1,760
雇用調整助成金	245,940	135,417
その他	13,250	2,622
特別利益合計	259,191	139,799
特別損失		
固定資産除却損	0	0
投資有価証券評価損	3,853	-
減損損失	8,812	-
新型コロナウイルス感染症による損失	513,593	195,506
店舗閉鎖損失	583	-
特別損失合計	526,842	195,507
税金等調整前四半期純損失(△)	△271,210	△10,982
法人税、住民税及び事業税	14,320	20,448
法人税等調整額	1,386	△1,761
法人税等合計	15,706	18,687
四半期純損失(△)	△286,917	△29,669
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△286,917	△29,669

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△286,917	△29,669
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29,871	△13,084
その他の包括利益合計	29,871	△13,084
四半期包括利益	△257,045	△42,753
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△257,045	△42,753
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△271,210	△10,982
減価償却費	41,121	31,931
のれん償却額	36,867	756
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△672	△8,732
賞与引当金の増減額(△は減少)	△64,271	22,924
ポイント引当金の増減額(△は減少)	4,595	△29,785
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△944	△378
受取利息及び受取配当金	△1,715	△1,924
支払利息	9,461	14,131
雇用調整助成金	△245,940	△135,417
有形固定資産除却損	0	0
有形固定資産売却損益(△は益)	-	△1,760
減損損失	8,812	-
投資有価証券評価損益(△は益)	3,853	-
売上債権の増減額(△は増加)	22,310	△27,910
棚卸資産の増減額(△は増加)	△58,316	△64,055
仕入債務の増減額(△は減少)	△292,486	△173,580
未払金の増減額(△は減少)	421,355	△408,411
前受金の増減額(△は減少)	△52,895	△47,912
その他	127,232	△461,876
小計	△312,844	△1,302,983
利息及び配当金の受取額	1,715	1,925
利息の支払額	△10,953	△14,127
雇用調整助成金の受取額	245,940	142,868
法人税等の支払額	△56,068	△69,112
法人税等の還付額	86,425	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	△45,785	△1,241,428
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△38,927	△38,920
有形固定資産の売却による収入	-	4,600
無形固定資産の取得による支出	△15,008	-
投資有価証券の売却による収入	94	-
貸付けによる支出	△4,590	△300
貸付金の回収による収入	628	788
敷金及び保証金の差入による支出	△10,071	△15,938
差入保証金の回収による収入	35,303	17,841
その他	△16,965	△11,426
投資活動によるキャッシュ・フロー	△49,537	△43,356

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,631,680	△24,960
長期借入れによる収入	930,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△137,289	△147,085
社債の償還による支出	△13,200	△4,200
株式の発行による収入	-	95,976
自己株式の取得による支出	△4,012	-
自己株式の売却による収入	4,012	-
その他	△18,004	△11,122
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,393,186	8,607
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,297,863	△1,276,177
現金及び現金同等物の期首残高	1,575,609	4,985,372
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,873,472	3,709,194

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

株主資本の金額の著しい変動

当社は、2021年4月2日付で、伊藤和則氏から第三者割当増資の払込みを受け、資本金が47,988千円、資本剰余金が47,988千円増加しました。

また、2021年6月29日開催の定時株主総会において無償減資について決議し、当該決議については2021年8月2日に効力が発生しております。この結果、資本金が117,988千円減少、資本剰余金が117,988千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が30,000千円、資本剰余金が165,976千円となっております。

(会計方針の変更)

当第2四半期連結累計期間
(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、他社が運営するポイントプログラムに参加し、他社が顧客へ付与するポイントの一部を当社が支払う額について、従来は、販売費及び一般管理費として処理する方法によっておりましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は18,209千円減少し、販売費および一般管理費が同額減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高へ与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	美容	和装宝飾	D S M	計
売上高				
外部顧客への売上高	1,043,088	3,997,899	515,928	5,556,916
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	1,043,088	3,997,899	515,928	5,556,916
セグメント利益又は損失(△)	19,935	△36,601	△27,486	△44,152

	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高				
外部顧客への売上高	221,409	5,778,326	—	5,778,326
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,481	3,481	△3,481	—
計	224,891	5,781,807	△3,481	5,778,326
セグメント利益又は損失(△)	△7,537	△51,689	56,693	5,003

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである教育事業及びその他の事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額56,693千円には、のれんの償却額△36,867千円、各報告セグメントに配分していない全社費用93,546千円及び棚卸資産の調整額13千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:千円)

	美容	和装宝飾	D S M	その他	全社・消去	合計
減損損失	2,165	6,646	—	—	—	8,812

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	美容	和装宝飾	D S M	計
売上高				
顧客との契約から生じる収益	1,011,010	4,731,872	464,180	6,207,063
外部顧客への売上高	1,011,010	4,731,872	464,180	6,207,063
セグメント間の内部売上高 又は振替高	14	—	—	14
計	1,011,024	4,731,872	464,180	6,207,077
セグメント利益又は損失(△)	△32,835	91,665	△21,143	37,686

	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高				
顧客との契約から生じる収益	228,240	6,435,303	—	6,435,303
外部顧客への売上高	228,240	6,435,303	—	6,435,303
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,289	3,304	△3,304	—
計	231,529	6,438,607	△3,304	6,435,303
セグメント利益又は損失(△)	△26,237	11,449	43,122	54,571

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである教育事業及びその他の事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額43,122千円には、のれんの償却額△756千円、各報告セグメントに配分していない全社費用43,880千円及び棚卸資産の調整額△2千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「第4 経理の状況」「1 四半期連結財務諸表 注記事項 会計方針の変更」に記載の通り、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の売上高は、「美容」が6,211千円減少、「和装宝飾」が7,922千円減少、「D S M」が4,075千円減少しておりますが、各セグメントにおいて販売費及び一般管理費が同額減少しているため、セグメント損失に与える影響はありません。